はじめに

『政治経済＜経済編＞』にようこそ。

この授業は，共通テストや一般的な私立大を受験する人に，土台となる知識をまんべんなくつけてもらうためのものです。

教科書レベルを欄外も含めて網羅し，コンパクトに解説していきますが，講義内での情報は，あくまでも収録時点のものとなります。

①受講の仕方

予習は必要ありません。復習に全力を投球してください。

②板書について

基礎〔ベーシック〕を黄，応用〔スタンダード〕を白，発展〔ハイレベル〕を赤で。ただ，授業はあくまでも聞くものだと思うので，極力少なくしています。テキストの空白を多くしてありますのでそこに書きこんでもらえれば十分です。特別にノートを用意する必要はありません。

③復習について

理想としては…，テキストをざっと見直す⇒教科書・参考書など読み物⇒一問一答集⇒問題集⇒確認テストというのが一連の流れです。そこに図説資料や用語集などを利用した調べ物を，適宜追加します。ただ，出来るようになれば何でも結構です。

※覚えていないのに問題を解くのですか？　とよく聞かれます。すでに覚えているなら解く必要はないですよね。解いてから覚えるのではなく，解いて，間違えて覚えるのです。

④推薦図書

・読み物系⇒教科書（東京書籍・第一学習社など）
　　　　　　『政経ハンドブック』（東進ブックス）など
・図説資料⇒各社最新のもの
・用語集　⇒山川出版社など最新のもの
・一問一答⇒山川出版社・KADOKAWAなど最新のもの
・問題集　⇒各社最新のもの
・過去問　⇒センター試験・私大など（赤本・黒本・青本・緑本など）

とにかく科目の性質上「新しいもの」を心掛けてください。また，「売れているもの」は市場〔マーケット〕で生き残っているわけですから，信用度は高いです。

あとは講義で。

伊藤賀一

目　次

第１講　経済社会の変容 ………………………………… p4

第２講　経済循環と現代の企業 ……………………………… p18

第３講　現代の市場 ……………………………… p28

第４講　国民所得・国富と経済成長・景気 ……………………………… p38

第５講　金融 ……………………………… p48

第６講　財政 ……………………………… p58

第７講　日本経済の歩みと現状 ……………………………… p68

第８講　農業・中小企業・消費者問題 ……………………………… p78

第９講　労働問題 ……………………………… p88

第10講　社会保障 ……………………………… p102

第11講　貿易と国際収支 ……………………………… p114

第12講　国際経済① ……………………………… p128

第13講　国際経済② ……………………………… p140

このテキストは2020年度版です。年度切り替わりの前後に講座ページに掲載予定の時事更新一覧をご確認頂くことで，来年度以降もこのテキストをそのままお使い頂けます。

〈***Note***〉

第１講　経済社会の変容

１　経済活動

①「経済」とは？

A　社会全体の営み。明治時代，福沢諭吉が英語の「economy」を，中国の「経世済民（けいせいさいみん）（世を治め民を救う）」という言葉から「**経済**」と訳した。

B　日常生活において合理的行動をとること。節約と同義。航空座席の「エコノミークラス」などがその例。

C　**財**〔財貨〕と**サービス**〔用役〕が，**生産・分配**〔流通〕**・支出**（消費・貯蓄・投資）されるしくみ。

②経済活動とは？

A　**財とサービス**

財は**自由財**（空気・水など）と**経済財**（商品），公共財と私的財などに分類される。

※サービスは正確には財の一種。

あ　**財**

経済財のうち，衣料・食料・住宅・通貨・有価証券など，人間生活に有用な**有形（ゆうけい）のもの**。生産財（原料・機械・工場など），消費財（耐久（たいきゅう）消費財・半耐久消費財・非耐久消費財など），投資財（資本形成に向けられるもの）がある。

い　**サービス**

経済財のうち，教育・医療・福祉・娯楽（ごらく）・修理・配膳（はいぜん）・演奏・宣伝など，人間生活に有用な**無形のもの**。

B　**経済活動→**人はすべて労働者・消費者・資本家

財とサービスを**生産・分配**〔流通〕**・支出**（消費・貯蓄・投資）すること。人々は**社会的分業・協業**により特定の財・サービスを生産・分配しており，他者の生産・分配したものと**交換**〔売買〕し，支出している。

※交換の場を**市場（しじょう）**といい，そこでは**貨幣（かへい）**が使用される。

※財とサービスは**再生産**（拡大再生産・単純再生産・縮小再生産）される。

　資本主義経済では，新たな**設備投資**が行われ，**拡大再生産がめざされる。**

C　**生産の三要素**

あ　**土地**

い　**労働力**

う　**資本**

D　**希少性**（きしょうせい）

資源は有限で，すべての人が無料で自由に利用すれば不足してしまう。そこで，優先順位を考えて**最適な配分**をするという経済的選択が必要となる。何かを手に入れ（＝利益・効用），手放す（＝費用）ためには対価が必要となり，希少性が**交換**〔売買〕を生じさせる。交換条件を金額で表したものが**価格**である。

※経済性の原理は，最少の費用で最大の利益・効用を得ること，いかに**効率的**か，にある。だからこそ**分業・協業**という発想が生まれる。

※「何かを得れば何かをあきらめなければならない」状況を**トレード・オフ**という。その際，実際の費用だけでなく，他の選択肢を選べば得られたはずの収入も犠牲にしている（＝**機会費用**）と考える。

※社会全体での経済的豊かさや満足度を経済厚生という。人が，**公正**（こうせい）かつ費用を上回る利益・効用が得られる交換を自発的に行えば，経済厚生は上昇する。

③経済の３政策

A　成長政策

各分野の潜在的な生産能力を向上させる。

B　安定化政策

経済水準の変動を緩和(かんわ)する。

C　再分配政策

不平等・格差の是正(ぜせい)をめざす。

④２つの経済体制

A　**資本主義経済＝市場経済**

「弱肉強食・優勝劣敗」の原理で資源の最適な配分が行われ，社会全体の経済発展が促進される。市場経済における自由競争と利潤(りじゅん)追求，資本家による労働者の雇用によって特徴づけられる。

あ　**私有財産制度**

生産手段を中心とする財産の個人所有が認められる。

い　**自由競争**

市場機構〔市場メカニズム〕が機能している。

※機能しない場合＝「**市場の失敗〔限界〕**」もある。

う　**利潤追求の自由**

え　その他

契約の自由・労働力の商品化など。

B　**社会主義経済＝計画経済**

政府が五カ年計画などの経済目標を設定し，指令する。

あ　**生産手段の公有〔社会的所有〕**

い　競争を排除

う　ノルマの達成が目的になりがち

〈 ***Note*** 〉

２　資本主義経済の成立と発展

①近世以前

A　原始共同体

採集〔獲得〕経済段階から生産経済段階（農耕・牧畜・遊牧）へ。

B　古代奴隷制社会

C　中世封建（ほうけん）社会

D　近世主権国家体制

ルネサンス〔文芸復興〕・宗教改革・近代科学の成立と絶対主義。

E　**市民革命**（17 世紀半ば～ 18 世紀）

私的所有権と自由権の確立。生産要素を用いて自由に生産活動を行い，得られた利潤を自らのものとすることが容認される。

F　**初期（商業）資本主義**

18 世紀に入ると，イギリスでは第２次の土地**囲い込み運動〔エンクロージャー〕**により農業の生産性が向上，食料供給が増大した。その結果，人口が増加して都市部に余剰（よじょう）労働力が発生し，資本の蓄積（ちくせき）が進んだ。

※利潤を求め資本を蓄積し，生産を拡大する動機付けをもつ**商業資本家**が登場。問屋制家内工業から**マニュファクチュア〔工場制手工業〕**へ。

②近代以降

A　**産業革命（18 世紀後半～）**

イギリスで始まった蒸気機関の発明による**工場制機械工業**化。産業の中心は農業から工業へ，産業の担い手は地主・農民から資本家・労働者へと転換。

B　**古典的（産業）資本主義**

工場・機械などを所有し，生産を行う産業資本が成立。この結果，**産業資本家**（＝経営者）による自由競争を原則とする**資本主義経済が確立**した。そして，土地・工場・機械・原料などの生産手段をもつ**有産階級〔ブルジョワジー〕**（＝資本家）と，生産手段をもたない**無産階級〔プロレタリアート〕**（＝労働者）の階級分化がみられるようになった。

C　**独占資本主義**

19世紀後半になると，資本主義の負の側面が目立ち，多くの産業分野で**独占化・寡占化**（かせん）が進行し，貧富の差が拡大した。

※大量生産・大量輸送が可能になると，資本家・企業は**規模の利益〔スケールメリット〕**を得ることに多大な関心をもつようになった。そして，**株式会社制度**の発達がこれを促進した。

あ　資本の集積・集中→市場の独占化・寡占化

19世紀末～20世紀前半に重化学工業が発達。価格競争が行われにくくなり，市場メカニズム〔価格メカニズム〕が十分に機能しなくなった。

い　激しい景気変動→**恐慌**（きょうこう）の発生

生産力の拡大とともに，供給が需要を上回る過剰生産がしばしば発生した。

※国家が原料供給地や生産物の販路を求め植民地獲得をめざす，**帝国主義**の拡大にもつながった。

う　貧富の差の拡大→格差の固定化

D　**現代的（修正）資本主義**

自由競争や市場原理の利点を生かしつつ，政府が積極的に経済活動に介入すること。世界恐慌（1929年）以後，市場メカニズムへの信頼が揺らぎ，政府や中央銀行による経済への介入が求められるようになった。

3　経済思想のあゆみ

①重商主義→トマス＝マン（英）ら

産業革命以前の絶対主義時代（16世紀～18世紀半ば）に,「国家の富は貿易の差額によって蓄積される金・銀や貨幣のみ」とした考え。国内産業を保護して輸出の振興に努める保護貿易政策がとられた。

②重農主義→ケネー（仏）ら

「農業労働だけが富を生む産業」とした考え。重商主義の保護貿易政策を批判し,**自由放任主義〔レッセ・フェール〕**を主張した。

③（イギリス）古典派経済学

18世紀～19世紀の**イギリス**を中心とする経済思想。自由放任・自由競争を主張。

A　**アダム＝スミス（英）『国富論（こくふろん）〔諸国民の富〕』**

「労働が富の源泉」とした。経済活動に国家は干渉すべきではなく,**自由放任主義**を主張し重商主義を批判。各人が自由な経済活動を行えば,神の「**見えざる手**」により社会の調和が生まれると説いた。

※このような「**小さな政府〔安価（あんか）な政府〕**」を理想とする国家観は,ラッサール（独）により「**夜警国家**」と批判された。

B　**リカード（英）**『経済学および課税の原理』

工場内・国内での分業にとどまらず,貿易を通じた国際的分業が,すべての国の経済厚生を改善するという**比較生産費説〔比較優位の理論〕**を唱え,自由貿易論を展開。

C　その他

マルサス（英）『人口論』,ミル（英）『経済学原理』など。

④（ドイツ）歴史学派経済学

リスト（独）が経済発展段階説に立つ保護貿易論を展開。後進国の幼稚産業を保護するべきと説いた。

⑤マルクス経済学

エンゲルス（独）の協力・援助を受けた**マルクス（独）**が**『資本論』**を著し，資本主義の矛盾(むじゅん)を克服(こくふく)し人間性を回復することをめざした。資本主義にもとづく市場経済は諸問題を自ら解決できないので，**社会主義〔共産主義〕にもとづく計画経済**への移行が必然だと説いた。

※マルクスとエンゲルスは，自らの思想を「科学的社会主義」とし，サン＝シモン（仏），ロバート＝オーウェン（英），フーリエ（仏）らによる従来の観念的な社会主義思想を「空想的社会主義」とよび区別した。

※マルクスは，生産物に価値を与えるのは投下された労働であるとし（＝労働価値説），利潤の源泉は資本家による労働者からの搾取(さくしゅ)であると考え，公正な社会の実現をめざした。

⑥近代経済学

1870年代以降の，マルクス経済学に対する経済学の総称。とくに1929年の世界恐慌発生以後は，市場が機能不全に陥(おち)り，政府が介入して問題を解決する**修正資本主義**が成立し，**混合経済**体制が常となった。

A　**ケインズ（英）**→主著『雇用・利子および貨幣の一般理論』

市場にかわり政府・中央銀行が財政・金融政策で民間投資を刺激すれば，**有効需要（＝貨幣の支出を伴う需要）**が拡大して景気回復と**完全雇用**を達成できることを理論化し，**「大きな政府」**への道をひらいた。

※**ケインズ学派**は伝統的な古典派経済学と反対の説を唱え，**ケインズ革命**とよばれた。

B　ピグー（英）

独占・寡占の公的規制や税制（累進所得税）による所得の再分配，環境税の導入による福祉の高まりを理論化して，市場への政府介入を正当化した。

⑦世界恐慌（1929年10月24日～）

ニューヨーク（米）ウォール街の証券取引所における株価大暴落（“暗黒の木曜日”）が，資本主義国に波及。「もてる国」の**アメリカ**は，**フランクリン＝ローズベルト大統領**による**ニューディール政策**や中南米諸国との善隣外交，**イギリス・フランス**は**ブロック経済**政策を展開。「もたざる国」の日本・ドイツ・イタリアは，右翼的全体主義による対外侵略に活路を見出すこととなった。

※左翼的全体主義のソ連は，計画経済のため世界恐慌の影響なし。

⑧現代経済学

現代の**修正資本主義**では，私的利潤の追求を目的に行動する私的経済部門と，社会的利益を目的に行動する公的経済部門とが併存し，さらに非営利の民間団体NGO･NPOも存在する（＝**混合経済**)。第二次世界大戦（1939年～45年）の後，主要先進国は高度経済成長を達成したが，1970年代に**２度の石油危機**を経験し，**スタグフレーション**に悩まされることになった。1970年代末～80年代前半には，イギリスのサッチャー首相・アメリカのレーガン大統領・日本の中曽根康弘首相らに象徴されるように，自由化・規制緩和や公営事業の民営化，福祉支出の削減を通じて国家の市場介入を縮小し，「**小さな政府**」をめざす**新自由主義**が世界的潮流となった。

※2000年代の小泉純一郎首相も規制緩和を推進し，格差の拡大につながった。

A　**シュンペーター（墺）**

新製品の開発や新たな生産方法の導入などの**技術革新〔イノベーション〕**が起こす「創造的破壊」こそが資本主義経済発展の原動力であるとし，景気循環の理論を唱えた。

B　**フリードマン（米）→**マネタリストの代表

ケインズ理論を批判して市場原理を優先すべきとし，**「小さな政府」への復帰を主張**した。

※景気対策としての財政・金融政策を排し，貨幣供給量を経済成長率・人口増加率に合わせ一定に保つ**マネタリズム**こそが，物価安定には有効だと主張した。

C　ガルブレイス（加）

欲求の容量はあらかじめ与えられているのではなく，企業の宣伝や広告によってつくられると分析した（＝依存(いそん)効果)。

D　スティグリッツ（米）

行き過ぎた市場原理主義が格差を広げたとし，アメリカやIMF〔国際通貨基金〕によるグローバリゼーションを批判。

⑨実物経済から金融経済へ

新自由主義による雇用規制の弾力化や社会保障の削減は，雇用を不安定にさせ，格差拡大や貧困率の上昇などの弊害をもたらした。さらに，経済のグローバル化や金融自由化の帰結として，タイ発の**アジア通貨危機**（**1997 年**）やアメリカ発の**リーマン・ショック**（**2008 年**）など，**バブル**〔泡〕の生成とその崩壊による国際的な金融危機が起きた。

※以後，新自由主義政策への批判が高まり，市場に対する規制を再度強化し，貧困対策を行うなど，政府・中央銀行の役割の重要性が再認識されている。

⑩経済のグローバル化〔グローバリゼーション〕

貿易・直接投資（貸付・株式取得・債券保有・不動産取得など）・**金融**の３局面で，経済の国境を越えた相互依存と一体化が強まる傾向をいう。1990 年代の旧社会主義国における市場経済化と世界経済への統合，2000 年以降の新興国の台頭により，経済のグローバル化は急速に進行した。

※**多国籍企業**の活躍により，**国際資本移動の自由化**が実現。それにともない，統一的・包括的なグローバル・ガバナンスの仕組みの構築が急がれる。

※しかし，グローバリゼーションは不平等の拡大をともなう。日本では，生産拠点の海外移転による雇用喪失や，非正規労働者の増加により，中間層が縮小して格差が拡大した。

４　社会主義経済の成立と変容

①社会主義経済の成立

『帝国主義論』の著者**レーニン**らの**ロシア革命**（1917 年～）により，**ソビエト社会主義共和国連邦**が成立（1922 年）。私有財産制と利潤追求の自由の廃止，生産手段の公有，計画経済，階級のない社会を目的とする。

※戦前の社会主義国は，ソ連の他にモンゴルがあった。

②社会主義経済の変容

当初は計画経済により景気循環や失業はなくなるとされたが，やがて工業生産の不振と生産性の低下に苦しむようになり，**市場経済の要素を取り入れざるを得なくなった。**

1928 年　ソ連のスターリンによる第一次五カ年計画（～ 32 年）により各地に社会主義国が誕生

1945 年　第二次世界大戦終結

1949 年　中華人民共和国成立

1956 年　日ソ共同宣言

1958 年　中華人民共和国の大躍進（だいやくしん）運動→人民公社の開始

1965 年　ソ連による利潤方式〔リーベルマン方式〕承認

1966 年　中華人民共和国の文化大革命（～ 76 年）

1971 年　台湾の中華民国から中華人民共和国へ国連代表権が移行

1972 年　日中共同声明

1978 年　中華人民共和国による“四つの近代化”

日中平和友好条約

1979 年　米中国交正常化

1980 年　中国の**改革・開放政策**開始→**社会主義市場経済**を導入

４つの**経済特区**設置

1985 年　ソ連のゴルバチョフ書記長による**ペレストロイカ〔改革〕**開始

1986 年　ベトナムの**ドイモイ〔刷新（さっしん）〕**政策開始

1989 年　天安門事件

ベルリンの壁崩壊

マルタ会談により東西冷戦終結

1990 年　**東欧革命**

1991 年　ソ連解体→ CIS〔独立国家共同体〕成立

1993 年　中国が社会主義市場経済を憲法に明記

1995 年　ベトナムの ASEAN〔東南アジア諸国連盟〕加盟

1997 年　イギリスから中国に香港（ホンコン）返還　→一国二制度

1999 年　ポルトガルから中国にマカオ返還→一国二制度

2001 年　中国の WTO〔世界貿易機関〕加盟

2010 年　中国の GDP〔国内総生産〕世界第２位

③社会主義経済崩壊の要因

A　計画経済推進のための情報的基盤の欠如（けつじょ）

B　適正価格を設定する計算能力の欠如

C　企業や個人に生産性向上や技術革新への動機づけを与えられず
　※ノルマ主義の弊害（へいがい）

第1講　確認テスト

1　以下のうち，サービスとしてふさわしくないものを選べ。
①教育　②医療　③娯楽　④有価証券

2　以下のうち，経済活動としてふさわしくないものを選べ。
①生産　②分配〔流通〕　③支出（消費など）　④応援

3　以下のうち，生産の３要素としてふさわしくないものを選べ。
①動機付け　②土地　③労働力　④資本

4　「何かを得れば何かをあきらめなければならない」状況をカタカナで何というか。
①クーリング・オフ　②トレード・オフ
③イノベーション　④エンクロージャー

5　2019年現在，世界の主流を占める経済体制としてふさわしいものを選べ。
①独占資本主義　②修正資本主義〔混合経済〕
③社会主義経済　④社会主義市場経済

6　イギリスで産業革命が始まったのはいつ頃か？
①17世紀　②18世紀後半　③19世紀半ば　④20世紀前半

7　アダム＝スミスやリカード，ケインズらはどこの国の学者であったか？
①ギリシャ　②オランダ　③イギリス　④ドイツ

8　世界恐慌が発生した年は？
①1914年　②1929年　③1939年　④1945年

9　新自由主義の指導者としてふさわしくないものを選べ。
①フランクリン＝ローズベルト（米）　②レーガン（米）
③サッチャー（英）　④中曽根康弘（日）

10　マネタリズムを唱えた学者とは？

①トマス＝マン（英）　②リスト（独）

③シュンペーター（墺）　④フリードマン（米）

11　ドイモイ〔刷新〕政策を行い市場経済を導入した社会主義国は？

①ソ連　②中華人民共和国　③ベトナム　④キューバ

解答

1	④	2	④	3	①	4	②	5	②	6	②
7	③	8	②	9	①	10	④	11	③		